第〇学年　学級活動学習指導案

以下の①から④を活用して学習指導案を作成すること　（※この注意書きは確認後に削除してくださ
①『小学校(中学　　文部科学省
②『「指導と評価　　考資料（小学校・中学校）』国立教育政策研究
③『自立した学習者』育成プロジェクト　令和7年度版」　沖縄県
④『生徒指導提要（改訂版）』　令和4年12月　文部科学省
※『問い』が生まれる授業サポートガイド」も必要に応じてご活用ください。

題材の内容によって、養護教諭，栄養教諭、学校栄養職員、司書教諭、外部講師などの協力を得て指導することも考えられる。

授業者　T2〇〇　〇〇

【年間指導計画の位置付け　〇学年　〇月計画　P．〇】

1　題材　「
　　内容（２）

学級活動(1)(2)(3)の特質の違い（育成したい資質・能力）を確認
学習指導要領の位置づけを記入
例：（２）イ　よりよい人間関係の形成

2　題材について

(1) 児童（生徒）の実態

〇題材に関する児童生徒や学級の実態を記述する。･･･「何が身についていて何が身についていないのか」「題材に係る事前の意識調査・アンケート・ＱＵ・アセス等の概要」など
〇必要に応じて、各教科との関連を図った計画的な指導や、学年段階及び発達の段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項についても記述する。

(2) 題材設定の理由

〇児童（生徒）が自己の課題として真剣にとらえ，目標や方法などを意思決定できるように，児童観(生徒観)を踏まえ，この題材をどう指導していくかを記述する。
〇教師の構想（本時で目指す児童生徒や学級の変容等の概略・展開方針）・活動形態・指導内容の重点・道徳との関連などを記述する。

(3)校内研修テーマとの関わり　（２年研，中堅研については個人のテーマとの関わりを記述する）

〇　テーマへ本時の授業を通してどのように迫っていくのかを記述する

3　学級活動(2)の評価規準

〇小学校は低・中・高の２学年ごと、中学校は学校としての評価規準を設定する。

第〇学年及び第〇学年の評価規準（←小学校）

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
※各学校の評価の観点・評価規準を記入する 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照		

4　事前の指導と児童（生徒）の活動

日　時	児童（生徒）の活動	指導上の留意点	◎めざす児童（生徒）の姿【観点】（評価方法）
〇月〇日（△） （例）帰りの会	アンケート調査を行うなどして、題材に対する学級の実態を捉えるとともに、題材に対する一人一人の問題意識を高める。	各内容に即した問題の状況や原因を理解するための各種の調査結果、解決の方法を理解するための必要な情報等を記入する。	

○月○日（△） （例）放課後			

5　本時の指導と児童生徒の活動

(1) 本時のねらい

「本時のねらい」には、自他の関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのか指導のねらいを端的に記述する。

(2) 本時の展開

過程	児童（生徒）の活動	指導上の留意点（○） （指導等があれば記載）	◎目指す児童（生徒）の姿 【評価の観点】〈評価方法〉
導入○分 つかむ	【つかむ】 1 題材について確認 2 話合いのめあての確認 3 教師の話	適応や健康安全に関わる題材について，題材や本時の課題をつかむ。	◎目指す児童（生徒）の姿
展開○分 さぐる・見つける	4 話合い 【さぐる】 【見つける】	問題の原因や解決する必要性などについてさぐる。 みんなでよりよい解決方法や努力事項などについて出し合って見つける。	◎目指す児童（生徒）の姿
終末○分 決める	【決める】 5 意思決定 6 話合いの振り返り 7 先生の話	自己の課題を解決するために努力すべき具体的な個人目標（内容や方法など）を決め，実行への強い決意をもつ。	◎目指す児童（生徒）の姿

意思決定
一般的に，意思決定とは，ある目標達成のために諸手段を考察，分析し，その一つを選択決定する人間の認知的活動とされています。学級活動(2)，(3)では，児童は学級での話合いを通して，「つかむ→さぐる→みつける→きめる」の流れに沿って意思決定します。児童は題材について共通する課題を見いだし，学級における話合いを通して，多様な視点から解決方法を見付け，自己の具体的な実践課題を決めて，粘り強く努力します。本時において児童一人一人が自分に合った具体的な実践目標を意思決定することができるようにするとともに，児童が自ら決めたことを実践して振り返り，自ら改善するための事後指導が重要です。

(3) 板書計画

「思考の可視化・操作化・構造化」の視点で，板書計画を行う。
※別紙で大きく示してもよい

6　事後の指導

日　時	児童（生徒）の活動	指導上の留意点と評価	資　料
○月○日(△) （例）帰りの会			

○定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲の継続化を図ります。学年、学級だより等を通して家庭と連携し、日常生活での意識化を図れるよう計画する。
○意思決定し、１週間実践したことの成果を自己評価したり友達と認め合ったりして、実感できるようにすることも考えられる。

7　参考文献

※その他、指導案作成に参考にした文献･資料等があれば記載する。

『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』令和５年４月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
『学校文化を創る特別活動(中学校・高等学校編)』 令和５年５月 国立教育政策研究所教育課程研究センター